

決算審査特別委員会報告書

令和6年10月3日

決算審査特別委員長 伏守 勝義

1 付託議案名

認定第1号 令和5年度嵐山町一般会計歳入歳出決算認定について

2 審査経過及び結果について

9月13日開会の本町議会第3回定例会において、本決算審査特別委員会に付託を受けました認定第1号令和5年度嵐山町一般会計歳入歳出決算認定についての件を、9月25日、26日、27日及び30日の4日間にわたり審査しました。

(1) 9月25日の委員会について

関係する執行部説明員の出席のもと、駅西公園改修工事、武蔵嵐山駅西口地区整備事業の現地視察を行いました。

(2) 9月26日の委員会について

関係する執行部説明員の出席のもと、課局ごとに審査することとし、議会事務局、税務課、総務課・会計課、地域支援課、町民課、福祉課、健康いきいき課、長寿生きがい課の順で通告書に基づき質疑を行い、主な質疑とその答弁は次のとおりでした。

議会事務局

議会事務局に対する質疑はありませんでした。

税務課

徴収事業のpipitLINQサービス徴収効果はどの質疑に対し、財産調査の預貯金照会業務をオンライン化することで、システム処理が可能となり、事務処理等にかかる業務負担の軽減が可能となったとの答弁でした。

総務課・会計課

長期債元金償還事業、利子償還事業の償還期限の最小・最大年度と平均年数はどの質疑に対し、令和6年度に償還期限を迎えるものが最小、令和25年度に償還期限を迎えるものが最大、平均年数は、8.19年となっているとの答弁でした。

地域支援課

電子自治体推進事業 DX の進捗状況はどの質疑に対し、システム標準化、マイナンバーカードの普及促進・セキュリティ対策の徹底を始め、国の計画の重点事項について取り組んでいる。特に国民の利便性に資する手続きの子育て、介護、転入・転出についてマイナポータルからのオンライン手続きを整備しているとの答弁でした。

町民課

後期高齢者医療健康診査受託事業収入の内訳はどの質疑に対し、令和5年度の健康診査業務委託料（681人）として641万502円、令和4年度の追加分（2人）として1万7,724円で、受益者負担は含まれていないとの答弁でした。

福祉課

児童虐待・DV対策総合支援事業の支出について、DV対策としての具体的な利用はどの質疑に対し、会計年度任用職員の報酬・期末手当に活用して社会福祉士を雇用し、

様々な問題を抱える子育て世帯の相談対応やケースワークを実施した他、子ども家庭支援センター運営事業に活用したとの答弁でした。

健康いきいき課

健康づくり事業の生き生きふれあいプラザやすらぎトレーニングルームの利用者数はとの質疑に対し、令和5年度中の運営日数は308日で、延べ利用者数は9,603人であるとの答弁でした。

長寿生きがい課

高齢者外出支援タクシー実施委託料の支払い先と利用割合はとの質疑に対し、支払先は一般のタクシー会社が5社、福祉限定タクシー会社が4社。利用割合は一般のタクシー会社が95.94%、福祉限定タクシー会社が4.06%だったとの答弁でした。

(3) 9月27日の委員会について

関係する執行部説明員の出席のもと、課ごとに審査することとし、環境課・上下水道課、農政課、企業支援課、まちづくり整備課、生涯学習課、教育総務課の順で通告書に基づき質疑を行い、主な質疑とその答弁は次のとおりでした。

環境課・上下水道課

空き家管理事業の内容と消耗品だけの理由はとの質疑に対し、危険空き家に対する緊急対策の経費で、ロープ、杭、ブルーシート等の消耗品、不在者財産管理人選任手続きの手数料で、消耗品として草刈鎌を購入したとの答弁でした。

農政課

新規就農総合支援事業の当初予算が大幅に増えた要因はとの質疑に対し、当初予算では、経営開始資金として150万円を30代女性1名に交付、補正予算では経営発展支援でトラクター購入資金309万6千円と経営開始資金150万円を30代男性に交付したとの答弁でした。

企業支援課

小規模事業者等賃上げ雇用拡大支援金の内容と効果はとの質疑に対し、賃金引上げ・雇用の拡大により前年度の給与支給額から3%以上増加させた小規模事業者等に対し、雇用者1名につき1万円を補助金として助成する事業（上限20万円）で、申請件数70件、補助金支出合計689万円である。従業員のモチベーション向上が図られ、物価等の高騰により厳しい経営状況に置かれた企業に対し、支援できたと考えているとの答弁でした。

まちづくり整備課

住宅リフォーム補助事業の助成内訳はとの質疑に対し、実績交付41件、400万円の予算額満額交付で、内訳は屋根・外壁の塗装22件、洗面所・トイレ・風呂の改修8件、ベランダ改修2件、窓改修2件、玄関改修1件、室内改修6件との答弁でした。

生涯学習課

杉山城跡史跡整備検討委員会報償費と方向性はとの質疑に対し、2回開催した会議の交通費分を含めた委員5人分の報償額である。杉山城跡は保存状態が良好な遺跡であること、近年大勢の来観者が訪れ、散策路の踏圧によるダメージが目立つこと等から、保存を目的とした最小限の整備や必要な発掘調査を計画しているとの答弁でした。

教育総務課

学校給食費負担軽減事業の物価高騰分1食あたりの単価は。また、各業者の委託料の高騰はあったかとの質疑に対し、補助単価は小中学校16.20円、幼稚園5.77円。給食調理等業務委託料、廃棄物収集運搬業務委託、衛生害虫駆除委託料、フード等清掃業務委託料、消防設備保守管理委託料、ピット内配管点検・清掃業務委託料は増加し

ているとの答弁でした。

(4) 9月30日の委員会について

関係する執行部説明員及び監査委員の出席のもと、歳入歳出を含めた総括的質疑を渋谷登美子委員、畠山美幸委員、吉本秀二委員、小林智委員、藤野和美委員、川口浩史委員の6人が順次行い、主な質疑と答弁は次の通りでした。

審議会、住民参加の委員会、区長会、民生委員会の男女比、女性参画比率はどの質疑に対し、女性比率は222人中70人の31.5%、区長会は35人中1人の2.9%、民生委員・主任児童委員は41人中31人の75.6%、男性のみの審議会・委員会は1つあるとの答弁でした。

各公共施設のLED化について今後どのように進めていくのかとの質疑に対し、B&G財団から補助いただく部分を先行して進める。環境や経費の問題等、総合的に考えるとLED化は進めていかなければならないとの答弁でした。

駅西公園愛称看板委託事業の評価はどの質疑に対し、28名の方から26の愛称が提案され、らんまるパークと決定した。看板製作費、印刷費、据付工事費、基礎工事費及び諸経費を計上し、契約業者は町内業者8社による指名競争入札によって決定したとの答弁でした。

千年の苑事業を中心とした観光協会への関与、ガバナンスをどう考えるかとの質疑に対し、補助金交付やイベント実施時に職員が一部の業務を行う等の支援を行いつつ一定の関与をしている。観光事業の目指す方向性は町、観光協会共同じであり、理事長を副町長が兼務している状況であってもガバナンスはしっかり効いており、問題はなかったと考えるとの答弁でした。

学校施設の修繕の取組みと成果はどの質疑に対し、児童・生徒・園児の安全確保を第一に必要な修繕を実施した。財源が厳しい状況で安全性や教育活動への影響などを考慮しながら、必要な修繕が実施でき、事故等の発生がなかったことが成果と捉えているとの答弁でした。

航空写真撮影業務委託を広域で実施する考えはどの質疑に対し、予算が予定通り取れるか等、他市町村と足並みが揃わないリスクもあるので、他の方法も模索しながら経費節減を念頭に検討していくとの答弁でした。

(5) 審査結果について

総括質疑終了後、討論はなく、本案を採決し、賛成多数により「認定すべきもの」と決しました。

以上、認定第1号令和5年度嵐山町一般会計歳入歳出決算認定についての件の審査経過及び結果について報告を終わります。